

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈3月20日（金）放送分〉

テーマ「あまみならではの学舎の紹介③」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、『あまみならではの学舎』の紹介」の第3回目です。

前回もお伝えしましたが「あまみならではの学舎」とは、県立奄美図書館で平成18年7月に開設された生涯^{しょうがいの}学習講座です。県民の学習意欲や要望に応じたテーマで構成されており、今年度は年間8回実施しました。前回の放送までに、これまで行いました第1回から第6回までの講座についてお伝えしてきました。今回は残りの二つの講座について紹介いたします。

まず、11月22日に7回目の講座「泥染めと共に歩む島唄」と題して、伝統工芸士・唄者^{うたしや}の福山幸司^{こうじ}さんに講話をしていただきました。講座の前半では、大島紬ができるまでの数多くの作業工程、泥染めの実際についてスライドを使って大変分かりやすく御説明いただきました。後半は、島唄について解説や演奏があり、特別ゲストとして平久美^{たいらひさみ}さんも一緒に参加して、島唄を10曲ほど披露^{ひろう}してくださいました。最後は、「島育ち」や六調を参加者全員で踊り、大いに盛り上がりました。

受講者の方々からも「大島紬の泥染めも、島唄も一つになって、奄美の心と芸術として現れていると知らされました。」「奄美の御先祖様の心が、より深く伝わってくるような思いになりました。一生懸命に唄って下さる姿に、大感動しました。」「大島紬の製造工程で各技術者の高齢化や従事者^{じゅうじしゃ}不足で将来が心配されておりますが、地元で最初から泥染業を本業として今日まで努力されていることを知り、貴重な人材であると感心いたしました。」など多くの感想が聞かれました。

続きまして、1月17日には、今年度最後の講座「地域資源としての奄美の海洋生物」と題しまして、奄美海洋生物研究会の興克樹^{おきかつき}さんにお話をさせていただきました。講座では、

ウミガメの生態や調査結果、イノシシによるウミガメ卵の食害、サンゴ礁の保全、ザトウクジラやイルカの生態について、写真や動画を使って大変分かりやすく御説明いただきました。ザトウクジラについては、この時期が繁殖期^{はんしよくき}のため奄美大島周辺海域の瀬戸内町や名瀬市など各地で出現を確認したことや、2月～3月がホエールウォッチングのピークだということなどもお話くださいました。

受講者の方々からは、「奄美の自然の豊かさを改めて感じました。この自然の豊かさを生かして、奄美がもっと元気になり、その結果、更に自然調査・保護が進んでいけばいいなと感じました。」「ホエールウォッチングなどは、奄美の冬の観光資源としてすごく魅力的なものになりうると思う。」「奄美の海洋生物がとても分かりやすく理解できました。クジラ・ウミガメ・サンゴが奄美の近くによく見受けられるようになり、安心しました。」などたくさん感想をいただきました。

講座終了後には、今年度の「あまみならでは学舎」の修了式を行い、6回以上受講された方16人に修了証書をお渡ししました。今年度は、自然・健康・水産・郷土・国防と幅広い分野で、今後の奄美の発展のためにも意義ある講座となりました。各講座の様子は、ビデオで収録しており、館内で視聴することができます。今年度も多くの方に受講していただき、ありがとうございました。

生きがいのある人生を築くとともに、潤^{うるお}いと活力のある地域社会の実現を図るために、平成27年度も多彩^{たさい}な内容を企画し、実施する予定です。楽しみにしていただきたいと思います。来年度も「あまみならでは学舎」への御参加お待ちしております。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。

